

第26回全国学校飼育動物研究大会 2024

大会テーマ 動物福祉に視点を当てた 学校での動物飼育

主催：全国学校飼育動物研究会

2024年8月25日(日) 12:30~16:30 <受付開始 12:00>
オンライン配信・ビデオ配信予定

ビジョンセンター西新宿 2F 201 東京都新宿区西新宿 1-22-2



12:00	受付開始
12:30	開会行事
12:35	口頭発表
14:00	休憩
14:10	シンポジウム
15:50	休憩・オンライン配信終了
16:00	シンポジスト、口頭発表者、 会場参加者との意見交換
16:30	閉会

●口頭発表

「学校飼育動物が児童に与える影響」

山本祐子（福井市立宝永小学校）

「生活単元学習での動物飼育の実践—動物福祉の視点からの飼育環境の改善を通して—」

堀直志、本間美知子、菊谷雅貴、松岡息吹（小平市立小平第九小学校）

「私たちの目指す終生飼養」

乾貴人、星川孝平、岡本雅乃、南部のどか（奈良県立山辺高等学校）

武井慶子（奈良県立高等養護学校）

●シンポジウム

コーディネーター：三品佳子（小平市立小平第十四小学校校長・本会運営委員）

鳩貝太郎（本会会長）

シンポジスト：齋藤博伸（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

中川清志（東京獣医師会副会長・本会副会長）

後援(予定)：文部科学省、東京都教育委員会

公益社団法人日本獣医師会、公益社団法人東京都獣医師会、一般社団法人日本小動物獣医師会

対象：教育関係者、獣医学関係者、動物園関係者、大学・大学院生、動物飼育に関心のある方 他

会場定員：80名（先着順）

参加申込：7月1日～8月18日の期間に本研究会 Web サイト「申込フォーム」より

<http://www.schoolanimals.jp/>

参加費：1,000円（学生は500円）※当日受付にて徴収、資料配付。

オンライン配信・ビデオ配信の視聴は無料。ただし「参加申込」が必要。

問い合わせ：全国学校飼育動物研究会 school-ownedanimals@ab.auone-net.jp



研究会 Web サイト

開催趣旨

我が国の小学校や幼稚園、保育園、認定こども園など（以下、学校という）では、ウサギやニワトリなどの小動物を飼育することが一般的に行われてきた。子どもたちが動物の飼育体験を継続的に行うことは生命の尊さを実感でき、思いやりの心を育むことができる。1973年に制定された動物愛護管理法は改正が繰り返され、制度だけではなく市民の動物愛護の意識は変容してきた。それと共に学校での動物飼育に対する考え方や飼育をめぐる環境なども大きく変化してきている。今回の研究大会では動物福祉の視点に焦点を当てて、これからの学校における持続可能な動物飼育と動物介在教育の在り方について意見交換し、これから求められる学校における動物飼育に関する提案ができるような交流の機会にしたい。

●口頭発表（12:35～14:00）

『学校飼育動物が児童に与える影響』

山本祐子（福井市立宝永小学校）

令和3年度に初めて学校飼育動物に携わり、その年の1月にモルモットが亡くなるという経験をした。そのクラスの児童は温かく、気持ちを伝えあって互いに相手を思いやることができた。翌年度は1年生の担任になり、2年間に渡ってモルモットを飼育し、学級の児童一人一人の変容や、学級全体の変化を観察できた。コミュニケーションの取り方が分からない児童や、ちょっと乱暴な児童の変容が目に見え、学級全体として、常に温かい雰囲気につつまれていた。これらを実践例として報告する。

『生活単元学習での動物飼育の実践－動物福祉の視点からの飼育環境の改善を通して－』

堀直志、本間美知子、菊谷雅貴、松岡息吹（小平市立小平第九小学校）

公立小学校の知的固定特別支援学級で、動物福祉に重点を置いた動物飼育の学習を行なった。日々の動物の様子を観察しながら飼育環境を改善・保持していくために、生活単元学習として話し合い活動や調べ学習を通し、動物飼育が児童の変容にどう影響するのかをみてきた。児童の発達の段階に合わせて、学年ごとに分かれ、4学級で行なった実践の成果と課題について発表する。

『私たちの目指す終生飼養』

乾貴人、星川孝平、岡本雅乃、南部のどか（奈良県立山辺高校）

武井慶子（奈良県立高等養護学校）

奈良県立山辺高校自立支援農業科に学び直しを希望し、入学した4名は来年3月に卒業を迎えます。3年間、毎日管理してきた小動物舎のウサギやモルモットたちも平均寿命を迎える中、そろそろ引退を考えなければならなくなりました。小動物の終生飼養と自分たちの自立について考えていく中で、大きな出逢いがあり、自分たちの進路が明確になり、それに伴い小動物たちを譲渡していただき、終生飼養を目指すことが可能となりました。そして、私たちが目指すことは、3年後学校飼育動物の休日のお世話を事業にしていくことです。私たちが学校飼育動物から生きる力をもらい、自立を目指せたように、学校に飼育動物が居るからこそ学べることがあります。私たちがお手伝いすることで、学校で飼育動物を飼育する機会が子どもたちにあるように頑張っていきたいと考えます。その経過と未来の計画を発表させていただきたいと思えます。

●シンポジウム（14:10～15:50）

テーマ『動物福祉に視点を当てた学校での動物飼育』

コーディネーター：三品佳子（小平市立小平第十四小学校校長・本会運営委員）

鳩貝太郎（本会会長）

シンポジスト：齋藤博伸（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

中川清志（東京獣医師会副会長・本会副会長）

●シンポジスト、口頭発表者と会場参加者による意見交換（16:00～16:30）